



なつ動物病院

肥満細胞腫（ひまんさいぼうしゅ）

■ 病気の概要

肥満細胞腫は犬によくみられる皮膚の腫瘍の一つです。見た目は単なる「できもの」に見えますが、悪性度が高いものもあります。ボクサー・ブルドッグ・パグ・ゴールデンレトリバー・ラブラドルなどに多く見られます。猫では皮膚よりも内臓（脾臓）に発生することが多いです。

■ 主な症状（飼い主さんが気づくサイン）

- ・皮膚のしこり・できもの
- ・しこりが急に大きくなる・消えたり戻ったりする
- ・しこりの周囲が赤くなる・腫れる
- ・嘔吐・下痢

■ どんな検査をするの？

- ・細針吸引細胞診（FNA）
- ・組織生検・病理検査（グレード判定）
- ・血液検査・尿検査
- ・リンパ節の触診・細胞診
- ・腹部超音波検査（転移・内臓病変の評価）

■ 治療方法

内科治療

- ・ステロイド（プレドニゾロン）の内服
- ・チロシンキナーゼ阻害薬（トセラニブ：悪性度の高い症例）の内服
- ・制酸薬（消化器保護）の内服
- ・抗ヒスタミン薬（ジフェンヒドラミンなど）の内服

外科治療

- ・外科切除（腫瘍の周りの組織ごと切除）
- ・不完全切除後の放射線療法（専門施設）
- ・脾臓摘出術（猫の内臓型）

■ ご家庭で気をつけること

- ・しこりの大きさ・形の定期的な確認と記録
- ・新しいしこりを見つけたらまず細胞診を受ける
- ・術後の傷の確認
- ・定期的な健診

■ よくある質問

Q. できものを見つけたらどうすればいいですか？

A. 自己判断は禁物です。良性か悪性かは細胞診・病理検査でしかわかりません。まずご来院ください。

Q. 手術すれば完治しますか？

A. 悪性度（グレード）と、周りも含めてしっかり切除できたか（切除マージン）によります。低グレードで完全切除できた場合、再発の可能性は低くなります。

Q. 薬で治りますか？

A. 外科切除が基本です。手術が難しい場合や再発例に薬物療法が有効なことがあります。

■ なつ動物病院での診療について

細針吸引細胞診から病理検査・外科切除まで対応します。「皮膚にしこりがある」場合は、まず細胞診で調べることをお勧めします。

なつ動物病院 気になることがあれば、予約外でもお気軽にご来院ください